



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 興石 信
令和6年度 第12号
2024.12.23



78日間の2学期が終了し、明日から冬休みが始まります。学校だよりでも紹介してきましたが、2学期はたくさんの行事があり、生徒の皆さんの頑張る姿、活躍する姿、成長した姿がたくさん見られました。うれしい限りです。さて、一年で一番寒さが厳しい時期になりました。他校ではインフルエンザによる学級・学年閉鎖が出始めました。できる予防や基本的な生活習慣を大切に、皆さん一人一人が健康で良い冬休みを過ごせることを願っています。

○冬休みは「心の断捨離」を！ ～終業式で話をしたこと～

明日から15日間の冬休みが始まります。年末には、大掃除や新年の準備を予定している家庭も多いと思います。ぜひ、皆さんも、家族の一員として、積極的にお手伝いをしてください。

年末の片付けに関わって、『断捨離』ということについて話をしたいと思います。『断捨離』と言うと、「不要なものをどんどん捨てること」というイメージですが、もともとは、ヨガの行動哲学に基づく考え方です。

「断」とは、自分にとって不必要なモノ、情報、悪い習慣などをやめること

「捨」とは、不必要なモノや余計な心配事を捨てること

「離」とは、モノやお金や地位・名声への執着から自由になること

だそうです。

つまり、『断捨離』とは、「ものをどんどん捨てる」といった表面的な行為を指す単純なものではなく、本来の意味は、「自分と向き合い、今の自分にとって本当に必要なものは何かを考える」ことです。そして、考え抜いた末、不必要なものに気づき、結果、捨てるという行為につながります。つまり、捨てることはあくまでも結果であり、断捨離の真髄は「今の自分としっかり向き合う」ことにあります。

そこで、皆さんにお願いです。冬休みは、今年1年を振り返り、次の1年の目標や希望を考える絶好の機会です。ぜひ、一人一人が『心の断捨離』をしてください。そして、今の自分の生活や習慣を見つめ直し、「ムダやムリやムラがないか」、「本当に必要なものは何か」、「何をすべきか」、「何をしたいのか」といった「自分と向き合う時間」を作ってください。そして、その中から、新しい1年の目標を定め、その目標を達成するために、自分がすべき具体的な計画を考えてほしいと思います。

1月8日の3学期の始業式では、新しい1年の希望と目標を胸にもった皆さん一人一人に会えることを楽しみにしています。



○来年度の「学校のリーダー」が決まりました。～12/6 生徒会役員選挙討論会・投開票～

12/6(金)の4校時に令和7年度の生徒会役員候補者による公開討論会、午後から投開票があり、来年度の生徒会会長、副会長が決まりました。当選者4名には、今日の終業式の後に行った任命式で当選証書と任命書が渡されました。また、その場で生徒会本部役員の発表があり、新会長のTさんから新役員8名に任命書の授与を行いました。

来年度の生徒会本部の体制は以下のとおりです。

- 会 長 T・Kさん(2年生)
- 副会長 K・Yさん(2年生)、Y・Kさん(2年生)、O・Mさん(1年生)
- 役 員 I・Mさん、O・Sさん、O・Tさん、S・Sさん、S・Kさん(2年生)
K・Nさん、T・Tさん、Y・Tさん(1年生)

選挙結果もさることながら、選挙期間も含め、討論会に臨む態度、開票結果等から、生徒の皆さん一人一人が来年度の双葉中を引っ張っていくリーダーを決めるために、一生懸命取り組み、真剣に考え、責任ある投票行動ができたことが一番の成果です。今後につながる大きな財産となりました。

新しい生徒会本部14名の皆さんは、自分に一票を投じてくれた仲間の思いを大切に、任命書の重みを感じ、学校のリーダーとしての責任を果たせるよう、至誠の心で務めてください。また、1,2年生の皆さんは、双葉中学校を今よりもさらに「一人一人が安心でき、楽しい、やりたい、がいっぱいある学校」にできるよう、14名のリーダーを支えてください。よろしくお願いします。



(朝の玄関先での選挙活動)

○初めての試み。楽しい時間がそこにはありました。～12/13 生徒会交流行事～



12/13(金)の午後、「生徒会交流行事」を行いました。これは、生徒会本部が「学園祭以外にも学年を超えて交流し、全校生徒で楽しめるような場を作りたい」という願いのもと、今年度初めて実施したものです。各クラスが一つずつゲームを担当し、短い準備期間の中でできる準備をして本番を迎えました。

当日は、高校の文化祭さながら、校舎全体が一つの大きな「びっくり箱」になったようで、USJならぬ「USF」(エバーサスジオふたば)のようでもあり、また、縁日のお祭りの露店のようでもあり、見て歩くだけでも楽しいものでした。私も、ボーリング、水中コイン落とし、ピンポン玉チャレンジ、謎解き、ストップウォッチゲームなど、幾つかのゲームに参加しました。運営の生徒がきちんとルールを説明したり、丁寧に補助をしたりと、“おもてなしの心”が随所に見られ、気持ちよく参加することができました。

学年男女混合グループで回ったため、学校生活の中ではなかなか話ができない他学年の生徒とも交流ができ、貴重な体験の場となりました。どのクラスも短い取組期間とは思えないほど、創意工夫や趣向が凝らされており、とても感心しました。そして、とっても楽しかったです。2学期の素敵な思い出の一つになりました。



<保護者の皆様へ> これからの子どもたちの学びについて

保護者の方から、本校の授業について相談がありました。内容は「自習が多く、子どもたちに学力が身に付いているか心配である、子どももよくわからないと言っている」といったものでした。話を聞いたときに、学校の様子と照らしてすぐに結びつくことが思い浮かばなかったのですが、考えていくうちに「もしかしたら」と思うことができました。

それは、本校のいくつかの授業で行っている「自由進度学習(複線型授業)」が「自習」と受け止められ、そのことが今回の相談になったのではないかということです。

自由進度学習は、新しい時代を担っていく子どもたちに必要な力の一つである「自己調整力」を養うための学習方法としてここ数年、各校で取り組みが始められているものです。この学習では、単元(学習内容の大きなまとまり)や授業で、提示された学習課題に対して、一人一人の生徒が自分に適した方法や順番、時間等を考えて課題解決に向けて学習を進めていきます。したがって、一人一人の生徒が黙々と課題に取り組む場面が多くあり、それが「自習」的に見えることがあるかもしれません。

本来、自由進度学習は、理解の速度や程度、学習の仕方の好みなどが異なるはずである一人一人の子どもに目を向け、それぞれの子どものに適した学習方法により学力の定着を図っていくという考えのもと生まれてきたもので、一人一人にとってわかりやすい学びを実現するための有効な手段であるとされています。自由進度学習が生まれてきた背景には、国や県から「個別最適化学び」や「子どもを主体とした授業」といったことが示されていることがあり、その大きな流れの中に自由進度学習はあります。したがって、今後、どの学校においても自由進度学習が進んでいくことが想定されます(但し、これまで私たち親世代が受けてきたような、必要な知識や技能を教師から生徒に説明し身に付けさせていく一斉授業がなくなるわけではありません)。

自由進度学習を目指す目的に適うものにするためには、子どもの発達段階や実態把握、教師の適切な支援、学習環境の整備、一斉授業とのバランスといった点に留意することが必要になります。一方で、全国的に取組や実践は始まったばかりであり、学校現場は試行錯誤しながらあるべき形を模索している状況であることも事実です。

本校としては、今回いただいた声をきちんと受け止め、「どうして自習と思われてしまうのか」、「生徒がわかりにくいと感じているのはどういう点か」といったことについて職員全員で考え、自由進度学習が子どもにとってわかりやすく、目的とする自己調整力が身に付くものに近づけていくことが必要であると考えています。こうした考えのもと、今月、自由進度学習について全職員で学習する場を設け、基本的な事項を確認しました。また、1月には外部の講師による各学級・各先生の授業参観と研修会を行い、自由進度学習を含めた授業のあり方について、学校全体で共通認識を持ち、授業改善を図っていきたいと考えています。

授業も含めた学校の教育活動は、生徒・保護者と教師、家庭と学校の信頼関係の中でより効果的に実践され、必要な力を子どもたちに身に付けさせることができるものと考えています。今後も、学校の取組等について、ご意見、ご相談いただくとともにご理解ご協力をいただきますよう改めてお願い申し上げます。

